

こ みち  
教育の小径

【今月の花】  
リンドウ  
【花ことは】  
あなたの悲しみに  
寄り添う

今月の記念日

鉄道の日(10月14日)

明治5年(1872年)9月12日、当時の新橋駅と横浜駅の間に日本で初めて鉄道が開業しました。この日は新暦の10月14日に当たります。「鉄道の日」と呼ばれるようになったのは平成6年からです。以前は「鉄道記念日」(大正11年に制定)と言われていました。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

今月の  
テーマ

## 子ども理解の深め方

- 教師が一人一人の子どもを理解することは、教育活動を展開するために必要なことです。その際、個人のプライバシーには十分配慮することが大切です。
- 子ども理解には、校内の教職員から聞く、保護者の協力を得る、アンケート調査を行う、教師が観察するなどさまざまな方法があります。

## 子ども理解とは何か

教師は、一人一人の子どもに確かな学力をつけ、健康な体と豊かな心を育てるために、日々努力しています。それは一人の人間として、人格を形成する重要な仕事です。人間を育てるという営みは、育てたい子ども像を目標として明確にするとともに、現在の子どもの課題や実態からスタートするものです。

子どもに根ざした教育を進めるうえで必要なことは、教師が一人一人の子どもを深く理解することです。

新しく学級を担任すると、まず子どもたちの名前を覚えます。これは子ども理解のはじめの一步です。また、学習や運動の状況、性格や得意分野、興味・関心をもっていること、友だち関係、さらには家庭の兄弟姉妹関係などを把握します。

生育歴や病歴、アレルギー体質など家庭や個人のプライバシーに深くかかわることについても理解していることが求められます。こうしたことは日々の教育指導において十分配慮する必要があるからです。例えば食物アレルギーがある子どもには、給食で特別のメニューを用意しなければなりません。心臓などに疾患がある

場合には、体育の時間などに注意深く観察・指導する必要があります。

教師が子どもを深く理解することは教育の原点です。指導に当たってのスタート台と言えます。

## どのように子どもを理解するか

子ども理解には、次のようにさまざまな方法があります。

まずは、校内の教師間で情報の収集と交換を行うことです。特に、前担任や専科の教員、管理職や養護教諭などからの情報は貴重です。担任の前では見せない様子を知ることができるからです。このほかに、学校に保存されている指導要録や健康診断票などを活用することも大切です。

次に、保護者の協力を得る方法があります。学校によっては「児童理解のための調査カード」(例)を活用しているところもあります。この場合、調査の内容や活用、カードの管理や処分などについて、校内で共通理解を図っておく必要があります。保護者にも調査の趣旨を分かりやすく伝えます。また、家庭訪問や個人面談などの機会をとらえて、対面しながら直接伺うことも大切です。

次に、子どもに対して調査をとおして理解する方法があります。研究授業に当たって、事前の実態調査やプレテストをすることがあります。生活や学習の状況についてアンケートを行うこともできます。これらはいずれも実施した時点での子どもたちの状況です。時間が経つと変わることがあります。

さらに重要なことは、教師が子どもを観察するという方法です。子どもの状況は時々刻々変化するものです。子どもに起こった小さな動きを見逃さない鋭敏な観察力と洞察力をもつことです。何げない表情やふるまい、言葉遣いに重要な背景が隠されていることがあることに留意します。

特にいじめを受けている子ども、心配ごとや不安なことがある子どもは、教師に対して何らかのサインを出しているものです。それらを感じる鋭敏さと適切な手だてが求められます。

教師が日々の教育活動において子ども理解を深めるためには、教師と子どもたち、教師と保護者との信頼関係をつくりあげることが何より重要です。あわせて、教師のことを子どもたちや保護者に理解してもらおう努力も欠かせません。これは保護者などによる教師理解です。

運動会は日本の独特の行事です。明治7年(1874年)に始まったとされています。地域と一体になった運動会が行われているところもあり、子どもたちだけでなく、多くの住民が大変楽しみにしている行事です。

運動会は、学習指導要領で「健康安全・体育的行事」とされています。多くの場合、徒競走や集団表現などの種目の練習は体育科の時間が使われています。学級活動の時間を使って準備などが行われることもあります。

運動会の担当者は、校庭の使用割り当てや特別の時間割編成、地域への広報や協力依頼など、学校や地域全体に目配りした企画と運営が求められます。運動会は、学校が地域や保護者から評価を受ける機会でもあります。

最近では、教科等の授業時数を確保するために、練習や準備に十分な時間がとれないと聞きます。また学校行事のバランスを図る観点から、運動会を春に実施している学校もあります。運動会は秋の季語です。本来秋を代表するイベントと言えるでしょう。



45分間の授業をどのように終えるか。ここには、授業者の授業に対する考え方が反映されます。

一般的には、その時間に学習したことをまとめて終了することが多いようです。学習したことを確認して授業を終わらせることはとても大切なことです。この場合、まとめるのは教師であったり子どもであったりします。教師が「今日は、○○○について勉強しましたね」と言うと、教師としてどこか安心してしまいます。

しかし教師が話したからといって、子どもたちも同じように確認したとは必ずしも言えません。やはり、子どもたちにまとめさせ、確認させるようにします。このことが子ども自身の自己評価にもつながるからです。

もう一つ大切なことは、次の時間の学習につながる課題を示すことです。これを「次時への予告」と言います。このことによって授業が連続していきます。子どもたちは次時の学習への期待と内容を意識するようになります。

次時の学習の冒頭には「今日はどのようなことを学習しますか」と、子どもたちに問うことができます。子どもたちが学習の連続性を意識するような授業の終わり方を工夫したいものです。



### 教育キーワード エコスクール

最近よく耳にするエコスクールについては、環境を考慮した学校施設に関する調査研究協力者会議が、平成8年にとりまとめた報告書に示されています。

そこには、エコスクールとは「環境を考慮して設計・建設され、環境を考慮して運営され、環境教育にも活かせるような学校施設」を備えた学校と述べられています。また、地球、地域、児童・生徒に、やさしく造る。建物、資源、エ

ネルギーを、賢く永く使う。施設、原理、仕組みを、学習に資するという特色をもった学校のことです。

これは教育活動の側面だけでなく、施設や設備の面からも環境を考慮した学校づくりを進めようとする取り組みです。過日改正された公立学校施設の整備においても、エコスクール化の推進や太陽光をはじめとした新エネルギーの導入が盛り込まれています。

#### 学級通信に使える今月のイラスト



読書の秋



目の愛護デー(10月10日)

#### 編集後記

2008年に発刊した「教育の小径」は、今号で通巻36号、丸3年を迎えました。多くの先生にご愛読いただき、今春からはWeb版も発行することができました。次号からは、紙面をリニューアルして、さらにパワーアップする予定です。どうかご期待ください。(H記)



企画・編集：ぐんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂 発行日：2011年10月1日

#### Information (PR)

北俊夫先生の  
新刊です!

若い先生に伝えたい!!  
子どもの学力をつける  
学習評価

◎著者 北 俊夫 ◎定価 1,890円(本体1,800円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂  
B5判 140ページ



言語活動は授業を  
どう変えるか  
—考え方と実践のヒント—

◎著者 北 俊夫 ◎定価 998円(本体950円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂  
A5判 112ページ